

ホストファミリー

日仏学生フォーラム (FFJE) のフランス側メンバーは、来日プログラムのうち東京に滞在している期間中、日本の家庭でホームステイをする。これには、学生同士の交流だけでは知ることのできない、異なった日本の側面を知ってもらい、という重要な目的がある。私たちホストファミリー班はこの目的を念頭に、3月からホストファミリー探しを本格的に開始した。5月・6月にかけて説明会を行い、弊団体やプログラム等について説明をした。そして、8月4日からの約二週間、フランス側メンバーを受け入れていただいた。

二週間という長い期間、見ず知らずの学生をボランティアで泊めてくださるという方が20組もいるか非常に危惧していたが、メンバー、OBOGの皆様、日仏会館の先生方や事務局の皆様をはじめ、たくさんの方のご協力をいただき、フランス側メンバーを泊めていただくご家庭を確保できた。メンバーが安全に滞在できるよう、またホストファミリーの皆様が安心して受け入れてくださるよう、担当メンバー一同で知恵を絞り、様々な工夫を凝らした。帰宅時間や次の日の予定などの連絡も密に行った。「今日は〇時ごろに解散予定です」、というようなメールを送るたびに、「いつもご苦労様」「暑い日が続きますので、日本側メンバーのみなさんもお無理なさらないでくださいね」などと、ホストファミリーの皆様は優しいお言葉をくださった。こうしたねぎらいの言葉は本当にうれしかった。

シンポジウムの後、ホストファミリーの皆様と日仏両側メンバーが一堂に会した。このささやかなお礼のパーティも我々が企画した。ホストファミリーの皆様とフランス側メンバーたちは本当に仲がよさそうで、ホストファミリー担当一同胸が熱くなった。「こんな素晴らしい出会いをありがとうございます」と声をかけてくださった方もいた。ホストファミリーの皆様にとっても、あの2週間がよい思い出になったのであれば、こんなにうれしいことはない。また、これをきっかけにフランスについて興味をもってくくださった方が増えたならば、「日仏の架け橋になる」という日仏学生フォーラムの目的を少しでも達成できたのではないかと思う。フランス側メンバーたちが日本に対して良いイメージを持ってフランスへ帰ってくれたとしたら、それはホストファミリーの皆様のおもてなしの心の賜物であろう。この場を借りて、改めて御礼申し上げたいと思う。また、これからもホストファミリーの皆様と、フランス側メンバーの縁が末永く続くことを祈る。

フランス側メンバーのホームステイの感想

Le FFJE vise une découverte du Japon comme vu par les Japonais. Ainsi, l'hébergement en famille d'accueil évite l'écueil d'un séjour entre Français qui n'aurait aucun sens dans le cadre du programme.

J'ai eu la chance d'être accueilli à bras ouvert par la famille Suzuki, dans une ravissante petite maison à coté du parc Inokashira. Ces deux semaines passées avec la famille Suzuki m'ont permis, le soir en rentrant du programme, de ne pas quitter le cadre Japonais et de continuer ma découverte de la culture Nipponne.

En dehors de l'aspect linguistique, qui profitera naturellement à tout japonisant, la vie chez l'habitant apporte un contenu humain incomparable. De la vie de famille au mobilier, du repas du soir aux discussions devant la télé, c'est tout un autre pan de la vie au Japon que nous découvrons. Qui n'a pas rêvé de discuter base-ball avec un japonais passionné ? De voir à quoi ressemble ces fameux ofuro (baignoires japonaises) ? De rentrer dans une de ces petites voitures carrées qui nous paraissent si bizarres ? Et la découverte n'est pas à sens unique ! C'est également un plaisir que de partager notre chère culture Française et de constater que nos coutumes intéressent des gens. Des liens se tissent, et les deux semaines paraissent cruellement courtes.

Etre en famille d'accueil c'est beaucoup plus qu'une solution d'hébergement peu coûteuse. C'est le meilleur moyen pour être en immersion totale dans la culture japonaise. En effet être dans une famille d'accueil nous a permis de découvrir le quotidien des japonais qui est relativement différent de celui dont on l'habitude dans des pays au mode de vie occidental.

Les familles faisaient beaucoup d'efforts pour rendre notre adaptation plus facile, par exemple par rapport à l'alimentation, elles respectaient les habitudes alimentaires des différents membres (certains sont végétariens, d'autres ne mangent pas de porc...).

Dans la quasi majorité des cas, le courant est bien passé entre la famille d'accueil et son membre français du FFJE. Il est indéniable que le premier contact est toujours le plus difficile car on n'a pas encore brisé la glace, on est un peu intimidé mais au fur et à mesure on se sent de plus en plus à l'aise et on essaie de communiquer comme on peut. Il n'est pas rare d'avoir des discussions assez cocasses où on emploie trois langues différentes (japonais, français, anglais) dans une même phrase !

Pendant le week-end au milieu du séjour, certaines familles ont pu partager des moments avec leurs membres respectifs et effectuer quelques activités comme par exemple une montée du mont Fuji ou bien une balade dans le quartier.

Bien qu'au Japon, il est coutumier de dîner relativement tôt, les familles ont été assez souples au niveau des horaires en nous accordant des permissions afin que nous puissions partager des moments de détente avec les membres japonais.

C'était un réel plaisir de partager le quotidien des familles d'accueil, si notre séjour s'est bien passé c'est en grande partie grâce à leur dévouement.

Merci infiniment pour tout ce que vous avez fait pour nous !

シェドリ君お元気ですか

◎磯村大様◎

パリでの生活はいかがですか。

フランスでの生活は第二の故郷とおしゃっていたけど、8月25日から授業が始まるので長い夏休みとは、言えないなど、いうのは贅沢だと思う。

君がわが家に来てくれた2週間は私にとっても自宅を過ごしやすいものにする、いい機会だった。

娘の部屋を使ってもらったが、電燈の紐が引いたら抜け落ちてしまって驚いていたね。

早く壊れかけた蛍光灯を付け替えようと考えていたが、長くそのままにしていた。

忙しさを口実にして一緒に住んでいた娘の居心地を、出歩いてばかりだからほっておけ、としていた私が悪い。

おかげでLEDの使い勝手のいい電燈に最後の一晚は間に合った。

ホストファミリーで学生を誰か受け入れてもらえないだろうか、と日仏医学会で話を聞いたのがたしか6月だった。7月に是非受け入れたいから協力してほしい、と母と妹にお願いした。

単身、医学生で医者が集まりに乗り込んできた三木さんの話を聞きながら、自分も学生のころは学んだ語学を実地に活かし経験を豊富にするために是非、海外に行きたいと考えていたことを思い出していた。

それは実現しなかった。日仏医学会もブルシエの集まりが中心だから、「君はいつフランスに行ったのかね？」と尋ねられると肩身の狭い思いがした。「いや、これから行ってみたいと思っているのです。」と答えて、歓待された。

自分はそれなりに年齢を重ねて、今度はフランスの若者を迎え入れるのが役割、と考えていた。

それが、目の前にある。しばらく考え込んで、ホストファミリーとして受け入れたいのだけれど

と三木さんに声を掛けられたのが縁だった。

廊下に寝かせてもいいから、との話しだったのだよ。しばらくすると宗教上の理由で食事に配慮が要するという。

日本やフランスのベジタリアンのほうが変わった食生活といえるね。豚肉とそれ由来のものをはずせば普通の食事だ。

私にとっても二週間学生に戻れた最高のバカンスだった。後悔するのは、英語ばかりで会話してしまったこと。

フランス語はほんのちょっとだったね。二人の会話で Vouvoyer はおかしいから Tutoyer にしましょう、と自然にやりとりできたし学生のころ、と言ってくれる一方、年齢相応の言葉を指導された二週間だった。

アラビア語で話す君は威厳があったね。日本語を話そうとする君は小学生高学年くらいの感じだった。

言語の大海を知れば知るほど、伝えられる知恵はほんの一滴と思う。でもあらん限りの知恵

を振り絞って伝えようとする心ほど若々しくエネルギーにあふれ成長を感じさせるものはない。

8年前にかじったアラビア語、もう一度挑戦するよ。家庭教師頼んだよ。

君の言っていたペアで習いたい語学をバーターするやり方興味深い。日本に興味あるチュニジアの女子学生を紹介してくれ。

君と同じ年の息子はタイに長期間絵画制作で滞在中だ。彼は画学生なのに専門の語学コースの学生以上にタイ語に堪能になっているらしい。

これからの若い世代は絵にかいたような未来だ。自由には危険も伴う。

しかしその危険を糧にできるようなね返す力を仲間と培って欲しい。

自分は中学生のころから制服拒否で正規軍に身をおいたことはなかったが稀に見る恵まれた環境で育てられたと思っている。

君もまさしくそうだ。エコールポテックで得た仲間は一生の支えにお互いなるのだろう、そしてこの日仏学生フォーラムで知り合った仲間も。

ネットで気軽にやりとりできる世界になった。またメール待っているよ。

Dai Isomura

この度日仏学生フォーラムを通じ、フランスの学生さんのホームステイ受け入れを初体験させていただきました。実際に受け入れがスタートするまではいろいろと不安な点もありましたが、プログラム開始前の準備段階から受け入れ終了までの全期間にわたる日本側担当のきめ細かなサポートのおかげで大過なくプログラムを終えることができ、感謝しています。

私どもは仕事の関係で約8年間フランス語圏に住んでいました。その間は必要に迫られてフランス語を勉強しましたが、その後はフランス語を使う機会もないままに10年が過ぎました。今も仕事で外国人の方と接する機会はありますが、その際に使用する言語は英語ばかりです。あれほど苦勞して勉強したフランス語をどんどん忘れていくのが、少しさびしく感じられておりました。そんな時にホストファミリー募集のお話を伺い、家族と相談してお引き受けさせていただくことにした次第です。

我が家に滞在してくださったセリアさんは、明るく元気な学生さんで、受け入れるまでの不安はすぐに吹き飛びました。毎日の食事について、どのような物をお出ししたらよいか悩んでいましたが、セリアさんは何でも「おいしい」と言って喜んで召し上がってくださり、ホッとしました。こちらとしては短い滞在期間中にいろいろな体験をしていただきたく、「あれもこれも」と欲張ってしまいがちですが、何の変哲もないただの「おにぎり」が殊のほか好評であったりといった意外な発見もあり、「必要以上に気負うことなく、自然体のおもてなしで良いのだ」と、気づかされました。

セリアさんは日本への留学経験もあり、日本語もお上手です。幼少の頃からの夢があり、その実現に向けて着実に努力してこられた様子を垣間見ることができました。日仏会館でのシンポジウムも参観させていただきましたが、どのグループの発表も「短い期間によくここまでまとめ上げたなあ」と感心させられる内容でした。

きっとフランス側の学生さんも日本側の学生さんも、各自しっかりとした目標をもち日々がんばっておられるのだろうと感じました。日仏両国のこれからの担う若者たちがこのように育っていることを実感することができ、非常に頼もしく感じました。

日本を訪れる外国人は増加傾向にあるようですが、観光・レジャー・ショッピングなどを目的とする訪問が約6割と圧倒的多数を占めており、滞在日数も7日未満が6割を超えています。そのような中、日仏学生フォーラムで行われている両国学生の相互訪問プログラムは、滞在中に多様な文化交流プログラムが組み込まれており、またホームステイにより一般家庭の暮らしを実体験することができる、実に貴重なプログラムだと思います。今後もこの有意義なプログラムが継続し、さらに豊かな実を結びますよう、願ってやみません。

高校留学生のホストファミリー経験は数回あったものの大学生は初めてで、どんな2週間になるかしらと多少の不安があって迎えた8月。そんな不安は Welcome Party で Gwen-Jiro 君にお会いして一瞬で消え去りました。礼儀正しく、明るいスポーツマン。おじい様が日本人ということもあってすぐに打ち解けることができました。

夕食の時には故郷のこと、家族のこと、通っている学校のことやフランスの教育システムのことなど、色々教えてもらい、観光旅行では知ることのできないフランスを知ることができました。

ホストファミリーと過ごす週末。いくつかのプランを考えてはいたのですが、昨年来日されていて、東京、日光、箱根、鎌倉とすでにいろんな所へいらしているとのこと。さてどうしましょう？スポーツが好きで、この夏季交流プログラム前にJリーグの試合を観戦し楽しまれたというので、横浜を案内後、夜は近くのスタジアムでサッカー観戦することに致しました。翌日は台風の影響で悪天候の中、雨にぬれない所へと考え、駅直結のショッピングセンターで彼がフランスの食べ物で一番好きだというガレット屋さんでランチ。帰りにそば粉を買って来て、夜はガレットの作り方を教えてもらい、一緒にたこ焼き作りの体験もしてもらいました。

連日の猛暑の中、京都旅行や数々のプログラムを終えあつという間の2週間。最後の夜は今まで食べていない日本食を用意し、ゆっくりと食卓を囲むはずが、孫が急に熱を出してしまい、慌ただしいものになってしまったことは残念で申し訳なく思いましたが、聞く所によると今年又、来日される予定があるとのこと、「日本の我が家と思っていつでも遊びに来てくださいね」と伝えました。又、今度私がパリを訪れる際は彼の通う学校を案内して下さるそうです。

若い人の吸収力は本当に素晴らしい。初めて会った時に比べるたった2週間なのに、日本語がすごく上達しているのです。新学期からは日本語の授業も始まるそうで、今度お会いする時にはきっともっともっと上手になっていることでしょう。楽しみです。

新しい素晴らしい出会いに感謝するとともに、日仏相互理解の為に少しでもお役にたつことができたのなら大変嬉しく思います。来年渡仏される日本の学生の皆さんもどうか素晴らしい体験をなさいますように……

7月のある日、突然ホームステイの依頼が舞い込みました。若い学生さんということで、私たちが上手くお相手できるかと迷いました。しかし、ありのままの日常をお見せして、ごく普通の日本人の生活を体験してもらえればいいのではと思い、ホストファミリーを引き受けました。

我が家に来た Aleksi は、とても真面目で、礼儀正しい学生でした。「日本語はとても綺麗な言葉だから好きです」と彼は言いました。そして、どんなことにも日本語を使って応えようと思いました。(帰る頃には、彼の日本語がまた一段と進歩したことは言うまでもありません。) 私たちは日本の文化と日本語を学ぼうという彼の真摯な姿勢に好感を持ちました。

実際、本当に特別なことはありませんでしたが、能面や能装束の展示会、また歌舞伎をいっしょに観劇したことは、よい思い出となりました。そして、夕食後のひと時のおしゃべり。パリの話はもちろん、フランスの教育制度や PACS, について、また彼のお母様の国、フィンランドの話など、それらはとても楽しかったです。今でも夕飯時になると、Aleksi の「ただいま〜」と玄関を入ってくる姿が浮かびます。いつの間にか我が家の一員になっていたのですね。終わってみればあつという間の2週間で、今は寂しいばかりです。

今回、Aleksi とのご縁はもちろんですが、何よりも良かったと思うことは「日仏学生フォーラム」について知ることができたことです。日仏の学生たちが、2週間ディスカッションをしながら、お互いの国の文化や歴史を背景にそれぞれの考え方を理解し合うことは、とても意義深いものです。シンポジウムでの発表を聴いて、このようなディスカッションに参加できる若い人々を羨ましく思いました。それと同時に私もホストファミリーとして少しは日仏交流のお役に立てたかなという満足感も持てました。

このような機会を提供してくださいました「日仏学生フォーラム」のみなさま方に心より感謝し、今後もこのご縁を大切にしていだければ嬉しく思います。本当にありがとうございました。

◎永松 智子 様◎

◎丹羽 恵令奈 様◎

「素晴らしい週末をありがとうございました。私はこの週末を生涯忘れないだろう。」

週末を一緒に過ごした後、ヴァランタン君は、こう言った。彼は、目を輝かせ、覚えてたの日本語ではあるが、しっかりとした意思を持ち、私に向き合っていた。

学生時代、希望者多数で、私は、フランス語を選択する事ができなかった。それでも、国への憧懐は持ち続けていた。そして、語学学習の機会を得るため、ネット検索をしていた時に見つけたのが、FFJE のプログラムだった。

遠い高校生時代に交換留学を私は経験し、今度は若い世代を支える側に立ちたかった。そして日本を世界に紹介したい、という強い思いがあった。

日仏会館のパーティ会場で待っていると、天井に届くほどの、長身の彼がやって来た。我が家の小さな居室で大丈夫なのかと、不安であったが、すぐに気に入ってくれたようだった。プログラムの日程はタイトだった。毎日7～8時に家を出、帰りは22～23時になる事もあった。一緒に過ごせる時は、友人や家族を混ぜて食事をしたり、お互いの国の事を質問し合った。私達よりも日本の文化に詳しく、驚く事もあった。

思い出深いのは、やはり家族皆で参加した屋形船での花火大会と、週末に行った鎌倉、ジブリ美術館、彼がお土産で買って来てくれた、フランス製鍋を使って作った夕食などである。私は彼の目を通し、日本の良さを再確認した。そして、彼ら学生の一夏の成長を間近で見れ、私達は家族になれた。

最後になりましたが、貴重な機会を下さった、関係各所に感謝致します。

日仏会館の先生方、国際交流基金、三菱 UFJ 国際財団、日本国外務省、在日フランス大使館、プログラム訪問先、ホストファミリー、フランス側、日本側学生の皆様、友人、親類、家族、プログラムに協力して下さい下さった皆様にお礼を申し上げたい。Grâce à vous, tout s'est bien passé.

グランゼコールの学生のホストファミリーになるなんて魅力的な話ですが、フルタイム共働きの我が家で2週間の受入れには少し不安がありました。でも、FFJE のホストファミリー担当のしっかりした学生さんとお話し、ぜひやってみようと思いついて受け入れることにしたのです。

うちに来てくれたのは高等師範学校の学生で20歳のスンヨン。韓国出身ですが、小学生時代からフランスに住んでいるので、彼の友人によれば「中身はフランス人です」。会話は英語が中心になるかと思いきや、学習歴1年の日本語が上手で、複雑な話の時だけ英語も使うという程度でした。大好きなアニメからも多くを学んだようです。

子どものいる我が家は、朝家を出るのも夜寝るのも早いので、スンヨンには合鍵を渡し、好きな時間に出かけて帰宅できるようにしました。彼は10歳と5歳の娘たちを本当によくかわいがってくれました。一緒にガンダムのビデオを見たり、仮名が読める5歳児と一緒に新聞の見出しや4コマ漫画から読める文字を探して音読していた姿は微笑ましいものでした。出かける時はいつも手をつないでくれ、娘はパパより高い肩車に大喜びでした。

週末には、急ぎ足の小田原城見学と箱根の温泉日帰り旅行。実物大ガンダムを見にお台場へ行き、浅草でドジョウ鍋に挑戦。隅田川で灯籠流しを見て釜飯も食べました。先輩から頼まれた本物の着物を探してお店も回りました。スンヨンが、ハム、チーズ、とろとろ卵の入った美味しいクレープを作ってくれたのには感激しました。

フランスでは18歳で成人とされ、大人と子どもの境界がはっきりしていると聞いていましたが、まさにそのとおりでスンヨンが大人としての立場からしっかりした考えをもって話をするのがとても印象的でした。日本人学生と行動を共にし、ディスカッションしたことで、日本人についてもいろいろ考えたようです。日仏の教育、日仏のエリート、日本人に足りないこと、幅広い分野を学ぶことの重要性などについてスンヨンと語り合えたことは私たちにとても大変楽しく刺激的なことでした。

スンヨンの帰国後、家族と「夏が終わっちゃったみたいで寂しいね。」と言いつつのもです。10歳の娘は「大学生になったらFFJEをやりたい」と言っています。そのためにはスンヨンみたいにたくさん勉強しないとね！また東京か京都かパリで会えるのを楽しみにしています。FFJEの皆さん、おつかれさまでした。ありがとうございました。

◎H様◎

ニコラ君を迎える少し前に、海外でホストファミリーのお世話になっていたのですが、ホストファミリーとして留学生を受け入れてみて始めて分かった事が沢山ありました。

また、私はフランスについて何も知らなかったのですが、ニコラ君や学生メンバーの皆さんを通して、また、シンポジウムでのプレゼンテーションを拝見してフランスについて知ることができました。

私を含め、家族全員がフランス語を話せないと言う状況の中で日本語を使って生活してくれたニコラ君に感謝しています。

母にとっては初めて出会う海外の方だったので、プロジェクトが始まる前はうまくやっていけるかかなり心配だったようですが、始まってみると母も楽しめていたようでした。

ホストファミリーとして留学生の方をお迎えするのは初めてで、色々と拙いところがあったと思いますが、皆さんのサポートのおかげで無事に終えることができました。

貴重な体験を、ありがとうございました。